



鶴嶺中学校だより

☆令和2年度の前期を終えて

本日で令和2年度前期の活動が終了しました。本来ならば年間の授業日数で丁度半分のあたりに秋休みをはさんでの後期スタートとなりますが、今年度は授業日数の半分に達するのはもう少し先となります。東京オリンピック開催予定であったため、体育の日はスポーツの日として7月に移動しており、さらに2日間の秋休みがありません。それでも前期と後期の間にあるものはやはり「折り返し」です。通常の土日ではありますが、秋めいた気候の中、10月10日（土）が休みとなることは懐かしく感じられます。かつては体育の日と言えば10月10日と決まっていました。その理由は1964年の東京オリンピックの開会式の日だったからです。

さて、令和2年度も「折り返し」を迎えます。大切なことは、自分の気持ちをいかに切り換えられるかです。4月からの自分の生活を振り返り、新たに修正した目標を探して後半戦に臨んでください。3年生が活動をしている陸上部と吹奏楽部についても、この10月がひと区切りの時期になります。そして10月19日（月）には体育祭もあります。3年生にとっては、卒業まで残り5か月の鶴中での生活となります。

また、9月22日（火）より運動部の新チームによる秋季大会（新人戦）が、新型コロナウイルス感染対策や様々な配慮をしながら無観客で実施されています。

9月の3週目に生徒会本部役員が行った朝のあいさつ運動を紹介します。全校での集会が行えない中、生徒本部役員としての活動もなかなか思うようにできないのが今年の現状ですが、地道にPR活動を行いました。こちら、やがて新しい役員にバトンタッチする時期が来ています。

まだまだ手探りで新しい生活様式で過ごしている毎日ですが、スポーツの秋、芸術の秋、そして勉強の秋を精一杯楽しんで、幸せの実現を目指して自分の実力を向上させてほしいと思います。そして食欲の秋でもあります。頑張った後は、安くて美味しい旬の味覚をいっぱい食べて、元気を回復してください。

配布版には
＜生徒会本部役員による朝のあいさつ運動＞
の写真が掲載されています。

☆読書の秋

前号の学校だよりでも書きましたが、今年度は戦後75年になります。戦争のことについてもう一度考えるためにも、小説を読むことをお勧めしました。実は数年前まで、私はあまり小説を読む方ではありませんでした。仕事に関係する実用書は読んでいたつもりでしたが、なかなか小説を読む心の余裕がなかったのかもしれませんが、でも最近は、「生きているうちに、少しでも多くの本を読んでおきたい！」と思うようになりました。

私が好きな3人の人物の名前は、偶然にも「ジロー」と関係が深いです。その3人とは、浅田次郎、白洲次郎、そして新田次郎の息子の藤原正彦です。学校司書の遠藤さんをお願いして4冊の本を図書室に置いてもらいました。それぞれ扱うテーマは違いますが、ともに戦争のことに関係する本です。また、4月に紹介した「天国までの百マイル」も置いてもらいました。私はこの本を4月以降2回ほど読み直し、その度に涙して勇気をもらいました。8月に読んだ時はBGMにPPM（ピーター・ポール&マリーという3人組の歌手。パフという曲は有名です。）の「500マイル」という曲を繰り返し聞きながら読みました。チャンスがあったら生徒のみなさんにも是非読んでもらいたい本なので紹介します。



- 「^{メトロ}地下鉄に乗って」 浅田 次郎
- 「白洲次郎 占領を背負った男」 北 康利
- 「流れる星は生きている」 藤原 てい
(藤原ていは新田次郎の妻で、藤原正彦の母です)
- 「天国までの百マイル」 浅田 次郎



「愛があふれる I 組の作品」

☆ 体育祭につきまして10月1日付の体育祭に係るお願いでは、「徒歩での来校に御協力ください」とありますが、「今年度より、体育祭は自転車での来校は禁止です」。御理解ください。